

意欲ある担い手の育成・確保

要約

農業者の減少や耕作放棄地の増加が進行する中で、新規就農者や集落営農組織といった地域の担い手を育成することが重要であるとして、課題に取り組んだ結果、3年間で10名の新規就農者の計画が認定されるとともに、新たな集落営農組織の設立を実現することができた。

現状(背景)と課題

- ・ 基幹的農業従事者数の減少、高齢化の進行
- ・ 経営耕地面積の減少、耕作放棄地面積の増加
- ・ 将来の地域農業を支える人材として、新規就農者の育成・確保が必要
- ・ 地域農業の維持・活性化を支える担い手として、集落営農組織の育成が必要



目標

- ・ 青年等就農計画の認定者数
年間 4名×3年
- ・ 次世代人材投資事業中間評価
B評価以上 100%
- ・ 集落営農組織 1団体設立

活動内容

- ・ 青年等就農計画の作成支援
- ・ 新規就農者フォローアップ相談
- ・ 営農組合発起人への助言指導、コムギ栽培指導

成果

- ・ H30からの3年間で合計10名の青年等就農計画が認定された (R2: 1名)。
- ・ 中間評価対象者5名がすべてB評価と判定された。
- ・ 山添村において、組合員数54戸からなる「ひがしとよ営農組合」が設立された。



新規就農者の現地指導



ひがしとよ営農組合 設立総会

東部農林振興事務所農業普及課
担当：担い手・農地マネジメント係 兵野・竹中
(農業次世代人材投資事業)

普及活動のポイント

- 青年等就農計画の作成支援については年間 18 回、新規就農者のフォローアップについては 61 回に及び指導を行うことにより、意欲的な営農の継続につなげることができた。
- 集落営農発起人に対して、組織設立にかかる情報提供や講習会参加への誘導することにより、着実に準備を進めることができた。

対象の変化

- 重点指導を受けた新規就農者については、栽培技術の向上が見られた。
- 担い手要件を満たす集落営農組織設立に取り組むとともに、コムギの試作が成功したことで、新規作物として本格的な栽培を行うようになった。

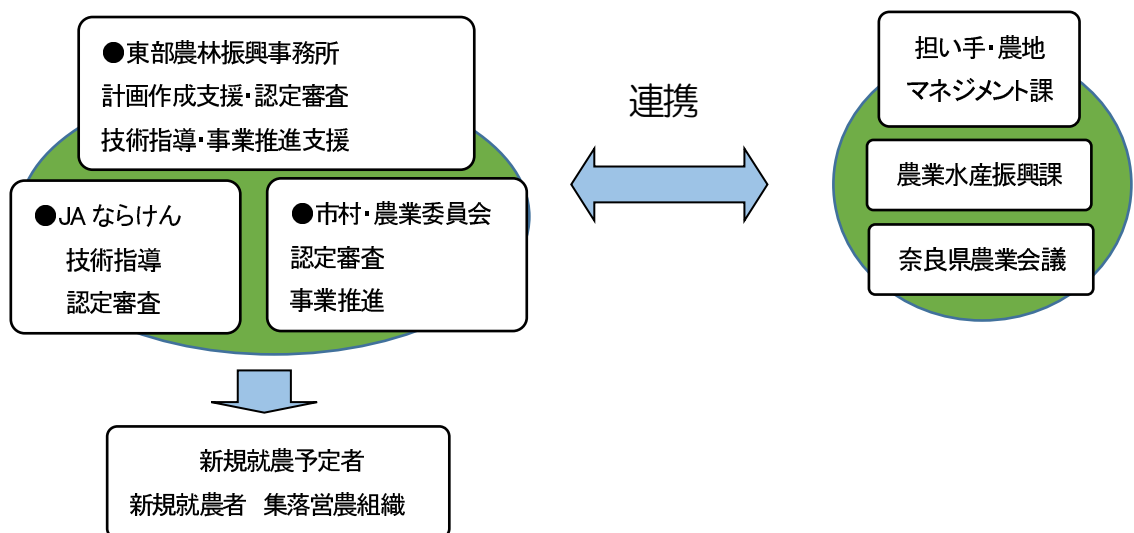
対象者からのコメント

- 経営指導や現地指導により、自分の農業を冷静に把握、振り返ることができた。(新規就農者)
- 予定どおり集落営農組織を設立することができ、新規作物としてコムギの栽培を開始できたので喜んでいる。(ひがしとよ営農組合関係者)

これからの活動ビジョン

- 就農予定者に対し、面談により経営目標を把握し的確な助言を実施する。
- 就農間もない生産者を重点的に支援し、安定的な営農ができるように指導・助言を通じて優良な経営体を育成する。
- ひがしとよ営農組合の経営基盤強化に向けた取り組みを支援し、他地域への波及を推進する。

活動体制



用語解説

<青年等就農計画>

新たに農業を始める方が作成する計画を市町村が認定し、認定を受けた新規就農者に対して重点的に支援を講じようとするもの。

<集落営農組織>

集落の農業を維持することを目的とし、集落を単位として、農業生産過程の全部または一部について共同で取り組む組織のこと。(米、麦、大豆など)